【 8 】

氏名	成　本　　仁
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	甲　第　508　号
学位授与の日付	昭和56年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 （学位規則第5条第1項該当）
学位論文題目	肝疾患患者血清中の可溶性免疫複合体の研究 第1編　Studies on circulating soluble immune complexes of the liver disease. 6. comparative studies of ^{125}I－pRF inhibition assay, ^{125}I－Clq inhibition assay and ^{125}I－Clq binding assay. （肝疾患患者血清中の可溶性免疫複合体。6. ^{125}I－多クローン性リウマチ因子結合阻害反応，^{125}I－Clq結合阻害反応および^{125}I－Clq結合反応の比較研究） 第2編　Studies on circulating soluble immune complexes of the liver disease. 7. immune complexes in the clinical course and their ultracentrifugal analysis.（肝疾患患者血清中の可溶性免疫複合体。7.　免疫複合体の臨床経過観察およびその分子サイズの検討）
論文審査委員	教授　大藤　眞　　教授　木村郁郎　　教授　折田薫三

学位論文内容の要旨

肝疾患の病因および病態の理解に免疫学的アプローチが注目され，体液性免疫，特に免疫複合体について，その存在が種々の肝疾患患者血清中に認められている。血中免疫複合体との反応物質に，多クローン性リウマチ因子およびClqを用いた高感度の免疫複合体検出法を開発し，両検出法によって原発性胆汁性肝硬変症，劇症肝炎，慢性攻撃性肝炎(2B)，肝硬変症，肝細胞癌およびルポイド肝炎で免疫複合体の存在が示唆された。さらに，これらの免疫複合体検出を用いて，肝疾患患者血清中の免疫複合体の臨床経過および超遠心分

離によるその分子サイズの検討により，原発性胆汁性肝硬変症，劇症肝炎，慢性攻撃性肝炎（２Ｂ），肝硬変症およびルポイド肝炎で認められた血中免疫複合体は，血清ガンマグロブリン濃度，ＨＢ sAg，各種自己抗体と相関して活動期に増加し，緩解期に改善する傾向がみられ，その分子サイズは19s以上の高分子であった。

論文審査の結果の要旨

本研究は肝疾患患者血清中の可溶性免疫複合体について臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかった免疫複合体の検出法及び肝疾患患者における検討について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。